

土壌消毒剤
バスアミド微粒剤
ダゾメット粉粒剤

平成26年5月28日付けで以下の通り適用拡大されました。

<変更内容>

- 作物名「葉たまねぎ(苗床) (一年生雑草)」を追加する。

太字が追加部分です。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ダゾメットを含む農薬の総使用回数
葉たまねぎ(苗床)	一年生雑草	10~20kg/10a	は種14日前まで	1回	本剤の所定量を均一に散布して浅く混和する。	1回

<使用上の注意事項の変更>

【変更前】

- (14) 芝の場合、目土中に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるので除草剤として、芝生に直接散布する事のないように注意すること。
- (15) たまねぎに使用する場合、次のことに注意すること。
- ①は種14日前までに使用する場合、本剤を均一に散布後、レーキ等で浅く(2~3cm)混和し、ビニール等で被覆する。7日後に被覆を除去し、さらにその後7日間放置し、は種前にレーキ等で浅く整地によるガス抜きを行うこと。
- ②秋期に使用する場合、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆する。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行うこと。は種は翌春に行うこと。

【変更後】

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤を処理する前に耕起整地すること。
- (3) 本剤は土壌中の水分によって分解し、ガスを発生することによって効果を発揮するもので、土壌の種類、水分含量、温度等により効果にふれが出るので、以下のことに十分留意すること。
 - ① 地温が10℃以下のときには使用しないこと。
 - ② 砂質土壌や乾燥した土壌で使用する場合は、ていねいに混和した後灌水して適度の水分を与えてから被覆すること。
 - ③ 次の場合はガスの拡散が遅いので被覆期間を適宜延長すること。
 - ア. 重粘土質の土壌の場合
 - イ. 降雨などにより土壌水分が多い場合
 - ウ. 地温が低い(15℃以下) 場合
- (4) センチュウが多発する条件、或いはトマト、なすではセンチュウ類に対する効果が劣る場合があるので、センチュウを防除対象とする場合には、他の防除方法と併用して使用すること。
- (5) ガス抜きが不十分であると葉害が生ずるおそれがあるので、少なくとも2回は耕起によるガス抜きを実施すること。なお、ガス拡散の遅い条件の場合は特にていねいに行うこと。
- (6) 本剤を全面に処理する場合、深さ15～25cmに土壌と十分に混和すること。特に、やまのいもに使用する場合は、深さ50～60cmに土壌と十分に混和すること。混和後ビニール等で被覆または鎮圧散水してガスの蒸散を防ぐこと。7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行うこと。
- (7) 本剤を苗立枯病または芝の目土用土に処理する場合、本剤を十分混和後ビニール等で被覆し、7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行うこと。
- (8) 本剤が作物に直接ふれると葉害を生ずるので、周辺に作物がある場合にはかからないように十分間隔をおいて薬剤を処理すること。
- (9) 温室やビニールハウスなどの施設内に作物がある場合、葉害を生ずるおそれがあるので使用しないこと。
- (10) りんご、桑、なし及びぶどうに使用する場合は、被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに本剤を散布し、深さ25～40cm(りんごの場合は深さ40cm)に土壌と均一に混和すること。本剤処理20日後に被覆を除去して耕起し、翌春に植え付けること。
- (11) ごぼうに使用する場合は生育抑制・岐根等の葉害を生ずるおそれがあるので、処理からは種までの期間を十分とり、ガス抜きをていねいに行い、発芽テスト等で安全を確認の上、は種すること。
- (12) しょうが及び葉しょうがの根茎腐敗病に対しては、多発生条件では効果が不十分な場合があるので注意すること。
- (13) は種又は定植の20～10日前に使用する場合は、地温20℃以上の条件に限って使用すること。
- (14) 芝の目土に処理する場合は、目土中に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるため除草剤として、芝生に直接散布する事のないように注意すること。
- (15) 葉たまねぎ(苗床)及びたまねぎのは種14日前までに使用する場合は、本剤を均一に散布後、レーキ等で浅く(2～3cm)混和し、ビニール等で被覆する。7日後に被覆を除去し、さらにその後7日間放置し、は種前にレーキ等で浅く整地によるガス抜きを行うこと。
- (16) たまねぎに秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆する。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行うこと。は種は翌春に行うこと。
- (17) てんさいに秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆する。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行うこと。は種は翌春に行うこと。
- (18) たばこに使用する場合は、次のことに注意すること。
 - ① 秋期に使用する場合は、本剤を均一に散布後、十分混和する。混和後鎮圧してガスの蒸散を防ぎ翌春耕起した後、植え付けること。
 - ② 春期に使用する場合は、本剤を散布後、十分混和する。混和後そのまま放置し、2週間後に畦立てをし、その2日後にビニール等で被覆する。さらに2週間後に植え付けること。
- (19) だいこんの「つまみ菜」及び「まびき菜」には使用しないこと。
- (20) ミツバチの巣箱周辺での使用はさけること。
- (21) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (22) 適用作物群に属する作物又はその新品種にはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。